Wearable Cardioverter–Defibrillator after Myocardial Infarction
N Engl J Med 2018; 379:1205-1215

背景：駆出率が低い患者では心筋梗塞発症後の突然死の発生率が高いにもかかわらず、
発症後40～90日までの植込み型除細動器は禁忌とされている．着用型自動除細動器(WCD)
によりこの高リスク期間中の突然死を減少させられるかどうかは不明である．
方法：急性心筋梗塞を発症した駆出率35%以下の患者を、WCD＋ガイドライン推奨治療群
（デバイス群）と、ガイドライン推奨治療のみの群（対照群）に2：1の割合で無作為に割り付けた．
一次アウトカムは、90日の時点での突然死、もしくは心室性頻脈性不整脈からの死亡（不整脈死）
とした．二次アウトカムは、全死亡および非不整脈死とした．
結果：2302例のうち、1524例をデバイス群に、778例を対照群に割り付けた．
デバイス群の患者はデバイスを中央値18.0時間/日装着していた．不整脈死はデバイス群の1.6%と
対照群の2.4%に発生した（相対リスク0.67、P＝0.18）．全死亡はデバイス群の3.1%と
対照群の4.9%に発生し（相対リスク0.64、P＝0.04）、非不整脈死はそれぞれ1.4%と2.2%に
発生した（相対リスク0.63、P＝0.15）．デバイス群で死亡した48例のうち12例は死亡時に
デバイスを装着していた．デバイス群の20例（1.3%）が適切な電気ショックを受け、9例（0.6%）
が不適切な電気ショックを受けていた．
結論：最近心筋梗塞を発症した駆出率35%以下の患者では、WCDによる不整脈死の発生率は
対照群と比し、有意な低下が得られなかった．